

グラップルで挟んだ荷が滑り落ち、作業員に接触！

— 震災被害の住宅解体工事で死亡災害 —

☆ 平成23年8月26日午前11時過ぎ、仙台市内の個人住宅解体現場でバックホー（クローラ式油圧ショベル）のバケットをはさみ形のアタッチメント（グラップルなどと呼ばれているもの）に取り替えて、一部居宅の解体作業中、挟んだ荷（バケット）が滑り落ち、付近にいた同僚作業員に接触し、翌日死亡するという事故が発生しました。

被災者は54歳の男性作業員です。

☆ 付近一帯は住宅地ですが、作業はフェンスに囲まれた居宅前の敷地内空地にバックホーを置いて、被災住宅の解体や庭に置かれた畳の片付け等をしていました。

敷地内空地は間口（東西方向）約14m強、奥行（南北方向）約5m弱で、北側には解体対象外の居宅が建ち、南側は公道となっていました。

重機は、空地のほぼ中央付近に西向きに置かれていました。

☆ 当日の作業は3名で行われましたが、事故発生時は1名が他出していたため、重機オペと作業員（被災者）の2名で作業中でした。

☆ オペレーターは、バックホーから取り外して敷地内空地に仮置きしてあったバケット（重量約210kg）はさみで挟んで持ち上げフェンス（高さ約1.9m）を越えたとき、はさみから外れて滑り落ち、フェンスの外側にいた作業員に接触したものです。

オペレーターからは、フェンスの陰となり作業員が見えなかったようです。

★ 狭い敷地内で重機やダンプが稼働し、さらに公道は近隣住民（子供を含む）が通行したり遊んだりします。作業員や住民の安全確保のために、常時、専属の誘導員を配置しましょう。

